



国営八郎潟干拓事業により、昭和39年(1964年)9月に八郎潟干陸・新村設置記念式典が行われ、10月に干拓地自治体として「大潟村」が誕生しました。

大潟村は、戦後の食糧不足を解消するため、大規模機械化農業による近代的なモデル農村として、全国からの入植者とその家族によって営農と村づくりが行われてきました。村民の努力により多くの困難を乗り越え、現在の豊かな大潟村へと発展し、平成26年(2014年)11月に大潟村創立50周年記念式典を行いました。その式典において、100周年に向けた大潟村の将来像を「大潟村未来宣言」として、中学生とともに宣言しました。

大潟村は、食糧生産基地として誕生しましたが、その後に始まった減反政策により大きな混乱を招きました。しかし、耕作放棄地を出すことも無く担い手の育成も進み、その使命を果たしてきました。近年は、米による転作が進み平成28年に生産調整達成率が100%を超えました。しかし、平成30年から国による生産目標数量の配分は廃止され、農家自らの判断で取り組むことになりました。村農業に大きな影響を与えてきた、生産調整の方針が大きく転換される時代となり、また、様々な技術革新が進むなか、今後の村農業の方向付けは最重要課題です。

住み継がれる 元気な大湊村

-未来の子どもたちのために-



平成29年度は「大湊村総合村づくり計画」最終年として、平成30年度からスタートする「第2期大湊村総合村づくり計画」の策定を村民のみなさまのご協力をいただき進めてきました。

この村づくり計画は、遠い将来像を大湊村未来宣言として、村の地方創生総合戦略である「コミュニティ創生戦略」を勘案し、村民ヒアリングや村民ワークショップ、パブリックコメントからの意見や提言を整理し、審議会での審議、議会での審査を経て策定することができました。

50周年を経て100周年に向かう最初の村づくり計画として、「受け継ぎ」「発展」させることを根底に、将来像を「住み継がれる元気な大湊村」とし、サブタイトルを「未来の子どもたちのために」と決めました。

50周年を経た過去に学び、現在を知ることにより、わが国の新たなモデル農村として、村民のみなさまと共に「住み継がれる」理想の村づくりを目指し、全村民が誇りを持ち、幸せを実感できる村づくりを進めて参ります。

策定にあたり村民のみなさま、審議会委員、議会議員はじめ、ご協力いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。今後も、村民と行政の協働の村づくり推進へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

大湊村長 高橋 浩人